

新年あけましておめでとうございます。  
平成最後のお正月、いかがお過ごしでしたでしょうか？

今回は事前に元号の変更がわかっているということで、新しい時代（元号）に向けて、皆さんもいろいろと準備を進められたのではないのでしょうか？

私自身、「平成」を振り返ってみますと、高校の入学に始まり、大学入学、就職、結婚、子供ができる等、人生の主な岐路でありイベントが集約された時代でした。



電機連合静岡地方協議会  
議長 石部 卓

よく“人生は、小さな選択・判断の積み重ねである”と言われます。私は、この点についてはポジティブに考える方で、自分のこれまでの選択は間違っていなかったと思うようにしていますし、今の自分があるのは、自分の判断の結果なので、その責任は自分自身にあると考えています。ただ、世の中をみてみると、自分の選択がそのまま結果に反映されないことも少なくありません。

先日、『「決め方」の経済学』という本を読みました。その本の中で、多数決での「決め方」について次のようなことが書かれていました。

選択肢AとBがあって、多数決をとるとAが優勢な状況。ここに、Aと対立するCという別の選択肢が登場し、Aの支持を奪った結果、票の割れが起こってBが選択される。このような結果は、本当に多数の意見を反映しているのか？ といった内容です。

こうしたことは、日本の国政選挙においても各地域で同様のことが起きています。今の国会議員が本当に一番多くの国民の声を受けて、国会の場で議論しているのか？ 国会で決定されていることが多くの民意を反映しているものなのか？ 疑問に感じるものが少なくありません。

それだけに、国会では、しっかりと少数意見の声にも耳を傾け、十分に議論を尽くして判断してほしいと考えます。

本年は参院選と統一地方選挙が重なる、12年に一度の「選挙イヤー」です。まずは、選択する権利を放棄することなく、しっかりと選挙に足を運んでいただき、皆さんの意思を表明していただきたいと思います。

皆様にとって、新しい年2019年が、実り多き年になりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。